



( 会議の経過 )

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
担当者	1 開 会
	2 外部評価委員紹介 各委員の紹介を行った。
	3 担当部局紹介 評価対象施策担当部局の紹介を行った。
	4 外部評価ヒアリング ○施策の概要 概要説明を行った。
委員	○事務事業の妥当性、施策指標の妥当性 施策指標について、事業者数と商工会員数ともう一つあるが、産業振興の推進は戸田市の総合戦略との相関、体系でいうと基本目標のところに「安定した雇用創出する」というものが、3番にあり、それに対する中心的な施策だと思うが、雇用数という数字が出てこない。それで、雇用数は、事業者数が増えれば増えることで成果が挙げられているということだが、雇用者数と事業者数の相関は調べたことがあるか。相関があるという認識でよいか。 加えて、もう一つ、税収もあげなければならないと思う、法人住民税を。この相関は、環境の変化で税収の変化もあるとは思いますが、事業者数と紐付いているという認識でよいか。そのような前提で事業者という指標を設定しているのか。というのが第1の質問である。 第2の質問は、その内数になる商工会員数が事業者数の半分ということだが、指標に2つ設定している意味はなにか。事業所数が増えれば、それで良いのではないか。商工会員数まで意識しなければならない理由を教えてください。また、商工会に加入しない人たちがいるのは、どういう理由なのか。
担当者	指標の中で、雇用という部分と税収という質問があったが、働いている人に関しては、施策29で市内事業所に勤める従業員者数を掲げている。ただ、

	<p>施策30は事業者数というところにスポットを当てているので、両者が相関したイメージで施策を展開しているかという点では、現状、そこまで雇用数を意識して施策30を展開しているわけではないが、経営基盤の安定性の観点から人の確保という取組を現場で行っている。</p> <p>次の税収については、正直なところ、税収データを入手できず、税情報という壁というものがある中で、リアルタイムで状況を把握することが難しい状況である。</p> <p>商工会員数については、確かに似たような指標を用いているところがある。ただ、我々としても市内事業者のリアルな状況、どういった課題を抱えているかという点を我々が把握するということが、1つの大きな課題である。商工会において、加入している事業者が増えていけば、商工会の事務局において様々な状況が分かるので、吸い上げていきたい。施策の指標と少し離れてしまうが、商工会を大事にし、商工会の会員が増えていけば、我々としてもありがたいと考えている。</p> <p>法人住民税については、事業者数が増えれば、均等割額に関わる必要がありますので、事業者数との相関関係があると考えている。</p>
委員	事業者数と雇用者数の相関は調べてないということではいいか。
担当者	施策29の指標ではあるが、それも経済センサス上の数値である。随時しているかということでは、していないが、指標を測る時点においては、確認している。
委員	商工会員数を事業者数の内数で目標に掲げられていて、産業振興の推進に直接的には結びつかないという話もあったが、どちらかという行政側の事情で商工会員数を増やして商工施策を円滑にやる土台作りのために、商工会の母体を増やしたいと感じたが、なぜ商工会に半分の事業者が加入しないのか、会費などの問題か。
担当者	一概に、これが1番大きな理由というものはない。
委員	理由がないと増やす施策も思いつかないのではないか。

担当者	<p>なぜ商工会に加入しないのかという点について確認が不十分であった。指摘のとおりそこを増やすというのであれば、なぜ、加入しないのかという点も探っていかなければならない。</p>
委員	<p>戸田市の就労人口のうち、戸田市内で働いている人の割合はどのくらいなのか、市外や都内へ行っているかの割合はどのくらいなのか、を教えてください。</p>
担当者	<p>今、数字を持ち合わせていない。</p>
委員	<p>分からないという中で、さらに質問となるが、そういった点が分からないと戸田市の就労人口を増やすと言ってもどこを目指すのか。戸田市内の就労人口は、戸田市内で完結する、いわゆる消費に係る商業分野だけなのか、他から就労人口を賄わなければいけないのか。就労人口を増やす対象は基本的には戸田市内の事業というよりもっとより大きな輸送や運輸といったところか。そのような点も検討に入れて事業を立案していかないと、労多くして成果に結びつかないのではないかと。</p>
担当者	<p>意見は承知した。イメージされているものと合うかどうか分からないが、昨年度、施策29になるが、市内在住の方に労働者意識調査を実施した。昨年度、初めて実施した事業ではあるが、無作為に抽出した20歳から60歳の3,000人にアンケートを送り、就労しているか、就労してなくて仕事を探しているか、就労してなくて働くつもりもないなどの項目やコロナ禍で、今どういう働き方をしているのかといった働き方についても調査を行った。その結果を持ち合わせてはいないが、就労や雇用という部分で客観的に捉えていかなければいけないので、引き続き、取り組んでいこうと考えている。</p>
委員	<p>ターゲットを絞った事業などを進めていくべきである。それによって、行動を決めようという人の方向性決定の一助となるべきと考える。</p>

委員	戸田市が実施している中小企業への融資について、多くの金融機関でやっている融資を戸田市がなぜ実施しているのか、戸田市の独特の何か違いがあるのか。
担当者	中小企業融資として、市で行う制度融資は、一般の方が銀行で借りられないような小規模事業者のセーフティーネットであり、利用しやすい保証協会付きの制度融資である。本市をはじめ多くの市町村で制度融資を取り扱っており、市町村で制度融資というものを取り扱っていない方が少ない状況である。
委員	保証協会を取ること自体が難しいと感じている。事業計画がしっかりした事業であれば、金融機関でも融資が取れる現状だと思うが、なぜ戸田市として規模も大きくなり、多額の融資をできるわけでもない中で、行っているのか。
担当者	指摘のとおり、事業計画を出して金融機関から直接借り入れができる方については、そのまま金融機関を使うことが正しいと考えている。しかしながら、借り入れをして支払えなくなった方に対しては、代位弁済という形になり、金融機関の判断となるところも多分にあるが、金融機関が保証の付かないプロパー融資には、少し迷う判断となる場合、市町村と保証協会の協力を得て多少リスクがあるが事業の応援をしていきたいということであれば、市町村の制度融資を借りて行うという点が大きなすみ分けになっている。
委員	そうなると気になるのは、回収ができるのかという点だが、回収できているという理解でよいか。
担当者	代位弁済になったときの流れとしては、保証協会付の融資になるので、代位弁済になった場合、保証協会がまず損失分について保証する。保証協会に対して金融機関と市町村が損失補償契約をしているので、そこで決められた割合で市町村が代位弁済を行うという形になり、市町村がある程度の割合の損失を被ることにはなる。その後の回収作業については、保証協会が回収業務を行い、未回収の方に対して、回収業務を行い、取り立てた金額を市町村

	<p>に返還をする流れになっているので、代位弁済になった金額を市町村が直接回収するといった事務は発生していない。</p>
委員	<p>損害が少し生じるという覚悟で融資をするという理解でよいか。</p>
担当者	<p>市としても代位弁済にならないでほしいという思いで行っているが、制度融資の性質上、事業者を支援するという方針の中、ある程度の支援に対する損失は、生じてしまうものであると考えている。</p>
委員	<p>大きく3つの質問がある。1つは、税収のデータの話で、市の総合振興計画では、戸田市を支える市内事業者となっており、戸田市をどう支えているかという点は、とても大事なことかと考える。市税の決算統計データを使えないという説明があったが、年度はずれるとはいえ、マクロ統計であれば見ることは可能ではないか。景気の動向もあるが、段々にレベルアップしているかという点を確認することによって、計画の進捗管理もできるのではないか。</p> <p>2点目は、総合振興計画を見ると、現状と課題の中に、少子高齢化に伴う人手不足、それから人材不足が明確に掲げられている。では、人手不足や人材不足を解消するためのメニューが、ロジック・モデルシートの中で、どこにあるのか。なお、事前質問の回答の中で、福祉産業・医療系のことについては、これからやると書いてあったが、過去を振り返るのが当委員会である。その点から踏まえると総合振興計画で人材不足、人手不足をなんとかする、と書いてあることを受けて、ロジック・モデルシート上では、人手不足・人材不足問題をどのように対応していくのか。</p> <p>3番目は、先ほどいくつかの質問の中で、市内でどう働いているのかという点、もちろん、コロナを受けて最新動向調査したというのは大変な努力された事がヒアリングで分かったが、長い目を見た場合に5年に1回の国勢調査では、必ずどこに働いているかというデータが入っている。もちろん、経済センサスのデータも大事ではあるが、もっともベースとなっている国勢調査を見ないのは、何か理屈があったのか。</p>
担当者	<p>1つ目の税収のところ、市税概要など、公表されているデータも確かに</p>

	<p>ある。我々も、詳細なデータがほしいと考えがちだが、公開されているデータでも見なければならぬデータがあることを今の質問からも感じ、意識を変えていく必要があると考えている。</p> <p>3つ目の国勢調査についても、どこで働いているかという質問事項もあるので、そういった統計についても有益であると考え。どうしても我々は経済分野の専門的なデータを用いなければならぬと考え過ぎてしまうが、このような指標があると目を向けていかなければ、不十分になってしまうと感じたところである。</p> <p>2つ目の人材確保については、事前質問の医療や福祉などは施策30というよりは、再掲という形で出てきている労働対策事業があり、その中で、人材確保支援事業を令和2年度から複数年で実施するプランはあった。これまでの企業調査の中から人材不足という課題が浮かび上がってきて、企業がどのように人材を確保したら良いかという支援として、セミナーの開催や求人情報誌への無料掲載などを展開していく予定であった。緊急事態宣言により人材確保もどのようになっていくか不透明であったため、展開しきれなかった。ただ、医療・福祉系では、コロナ禍で人手不足がより浮き彫りになったので、求人情報誌への情報掲載といったことは取組レベルではあるが、昨年度、実施していた。</p> <p>人材確保事業の位置づけとしては、労働対策事業の中で展開しているので、施策30では見えにくいだが、人材のミスマッチを解消していく取組を行っていきたいと考えている。</p>
委員	<p>我々は過去がどうだったかを見なければいけないので、このような質問になってしまうが、別の政策では、保育の待機児童の問題等のときには保育士を確保するために市が積極的に取り組んできた事業が存在していて、広い意味で産業を支えていたということで、各分野では、実施していると感じているのだが、施策として事業を立ててターゲットを明確にして、ここの分野の人材をこうやって確保していくというような作業を令和3年度までになかったという理解でよいか。</p>
担当者	<p>労働全般というような括りで活動していたところがあり、保育は保育といったような形でプランを立てていたわけではない。</p>

委員	<p>指標の3つ目の産業支援に係る補助支援制度利用件数について、令和3年度277件で、その内訳については事前質問 No9 で回答があり、住宅改修資金助成が28件、それから商店等新業種転換補助金などが28件とあった。前者は、ハウスメーカーとか工務店の支援制度に対する支援制度と捉えており、商店も立派な商業者という形になっている。そうすると、特定業種に偏向している制度ではないかと感じる。これだけで件数の20%だが、業種普遍的な制度になっていないのではないかと。</p>
担当者	<p>確かに主な実績として回答した住宅であれば、市内の住宅系事業者を市民が利用して改修したときに助成金を出すというもので業者が限られるということもある。店舗の転換では、何かしら店舗を出しているということになるので、この2点については自ずと業種が限られてしまうことはある。広く業種偏りなくという支援制度としては中退共掛金の補助なども実施しているが労働対策事業の体系の中から出てくる取組である。実質、補助金や工業見える化など、この業種にこの補助といったように組み合わせて行っている状況である。</p>
委員	<p>産業振興の推進の施策指標として、挙げているのに一部の特定業種に関する取組があると指標として不適切でないか、市全体の作業進捗が分かるパラメータにはなっていないという点と、制度自体については予算配分として特定業者に偏っているのではないかという点について意見する。</p>
委員	<p>具体的な数値として、実際にふるさと納税で戸田市に納税されてそれに応えたという件数、それから、戸田ブランドに認定されることによってその売り上げがどうなったか、というようなデータがあれば教えてほしい。</p>
担当者	<p>令和3年度ふるさと納税の件数は約550件、寄附額については約850万円である。戸田ブランドに認定されたことで売り上げがどれくらい変化しているかという点については、持ち合わせていない。</p>
委員	<p>なぜ、こういう質問をしたかという点、戸田ブランドに認定やふるさと納</p>

	<p>税返礼品に指定ということを行えば良いのか。指定した後に何をするのがないと事業として成り立たないのではないかと。</p> <p>同じようにターゲットとやることをはっきりしない資格補助については、目標20件に対して実績が1件で、告知を十分にやったということは、ニーズに合っていない事業ではないかと疑問が出てくる。言葉は悪いが、やる方の独りよがりになってしまうと、努力は多いが、なかなか実にならないのでは、お互いに不幸になるのではないかと。</p>
担当者	<p>大変重要な指摘であると感じている。</p>
委員	<p>大変だが、これからも頑張ってもらいたい。</p>
委員	<p>○資源の方向性</p> <p>事前質問 No16 と先程の委員の話とかなりクロスする内容になるが、今後の資源の投入量を考える観点からの質問で、近隣のさいたま市や和光市と何が違うのか。そこから、方向性の議論も見えてくるのではないかと。大きくいうと何が違い、何を狙っているのかということになる。資源の方向性という話なので、戸田市に無くて、さいたま市にあるものを考えると、さいたま市の北にある大規模な工業団地のようなものがあり、その工場をどのように埋めるか、というのがさいたま市の大事なポイントになっているが、ロジック・モデルシートを見ると、戸田市は工業団地を造成するという話はないので、そこへのコストのかけ方が全然違っている。今後の方向性を考える上では自由度が高いということが前提として見えたが、近隣の工業団地を持たない和光市のようなタイプと工業団地を持つようなさいたま市と何をどのように差別化して、政策30を発展させていこうかと考えているのか。</p>
担当者	<p>率直に申し上げて、近隣市との差別化というような発想をこれまでできていないというのが正直なところではある。</p> <p>戸田でいうならば、倉庫があるだとか、印刷の町だとか、我々も産業立地ということで工場などではなく、小スペースでも誘致できるようなところで、DX分野といった事業のサテライトオフィスを誘致できるのではないかと。他との差別化を図りながらどうやって戸田市を打ち出していくかという</p>

	<p>視点については、欠けていると感じた。</p> <p>冒頭で申し上げた今年度からのDX伴走型支援事業を取り組んでいく中で、戸田市では印刷業が古い産業としてあり、今、デジタル社会が進み、紙の需要が減るといことを想定した中で、DXをキーに業種の転換など、印刷業の中からもロールモデルとなるような業者を見つけて、他の業者にも良い影響を与えていきたい。印刷業が多いという点は和光市やさいたま市と違っているので、既存の産業に対しDXをキーにして支えていきたい。そのような点は今後の戸田市の産業振興の目指すべきところとして、取り組んでいるところである。</p>
委員	<p>資源の方向性を議論する上で、その前提として質問するが、施策評価シートを見ると、施策の主な取組が商工調整事業、商業振興事業、工業振興事業ということでカテゴリや業態別で挙げられている反面、下の課題のところは、課題が販路開拓と事業承継と人手不足という個別課題になっている。予算の切り出しがそれぞれの課題に対して、どうなっているか。予算の方向性を議論するときにそれが切り出されて販路開拓、DXを推進していくという手段を挙げられているが、これにはどれぐらい、それから事業承継は、セミナー主体とのことだが、今どれぐらい、それから人手不足は労働者側の事業を雇用者側の問題として位置づけてこれに連携するということが書かれているが、予算措置と言う観点で、この3つの課題に対して、どのように割り振られているのか。</p>
担当者	<p>課題について、どのくらいの予算配分がなされているかというところであり、これにいくらの予算を投じるという検討まで、至っていない状況である。ただ、事業承継であれば、セミナーを行うなど、予算をかけずに取り組んでいくところもある。事業承継であれば県や様々な機関の協力を得ながらセミナーを開催し、人手不足という点では、ハローワークの協力を得ながら実施しているので、予算を投じるところまで至っていない。販路開拓では、DX伴走型支援として補助金等を含めて、2,000万円ほどで展開している状況ではある。</p>
委員	<p>今後の課題で良いが、事業構成を課題に則した形で、それに紐づいた形で</p>

<p>委員</p>	<p>評価をしていかないといけないので、見直しをお願いしたい。</p> <p>戸田ブランドは、製品でなくてもいいのではないかと、差別化はどのようにするのか。例えば、今の運送業だとか倉庫だとかといっても、地の利というのがあって、盛んになってきた。印刷業にしても都内の大消費地があったから盛んになった。今の戸田の魅力を最大限に生かした戸田市のブランド感について、事前質問の回答の中には、これから考えていくとあったので、非常に心強いと思うが、何で差別化できるのか、これが重要なポイントになってくる。市民の意識調査の中で医療ネットワークの満足度の高いというのが、あるのであるならば、それをベースにさらに進めるとか。それからテレワークというのがどんどん盛んになってくるならば、ネット環境をより充実させるとか、行政ができることは事業を育てることなのではないか。</p>
<p>担当者</p>	<p>貴重な意見として受け止める。正直なところ、経済を担っており、事業者への支援だとか一方で就労支援を担っている。シティーセールスという部分もあるかと思うが、日頃の私どもの枠を超えてしまっているような話と受け止めてしまっている。経済という立場の中で、医療の話があったが、進めていくにしても行政機構の中では、関連する部局を飛び越えてしまうことは難しいと考えている。ただ、市域を考えたときに市の強みというようなものはあるので、経済でしか、というのではなく、連携できる部分というのは考えていかなければならない。</p>
<p>委員</p>	<p>第5次総合振興計画は10年の計画であり、10年経ったら、それができていたということで良いと考える。そのために、今何やるかということではないか。確かに今までの事業を引き継がなければいけないことも多くあり、それで手一杯なのかもしれないけども、第5次総合振興計画で何をやる、何をやったのか、というものを残すことも必要ではないか。非常に大きな話で来年何とかしよう、再来年に何とかしようというのではなく、10年経ったら、それがある程度形が見えてきた、方向性が出てきた、でも良いと考える。そういった観点でいろいろ苦勞していただきたい。</p> <p>○その他</p>

委員	<p>感想も含めてだが、例えば、商業振興事業に約4億9千万円の予算が配分されている。戸田の全事業者に占めるその商業事業者の割合ってどれぐらいあるのか。つまり、その税収に対するその予算配分の適切性という点はどうなのか。先ほどからの議論で税収は見えていないという話だが、市への貢献度という視点から見ると、限りある予算をどこにお金を使うのかという視点で見てほしい。そもそも、戸田は大きな繁華街がない、それゆえにシャッター街の問題もないと思うが、ここに既得権益的にお金が重点配分されているというところの部分も含めて見直しを図っていただきたい。</p>
担当者	<p>税収に見合った施策を展開するという視点は必要でこれから考えていかなければならないと感じたところである。</p> <p>事務事業評価シートの補足となるが、令和3年度で3億5,000万円の事業となっていて令和4年度以降で4億8,000万円程度だが、要因としては年度を跨いで地域くらし応援券として5,000円分の商品券を戸田市民の全員に配るという事業を商業振興事業の中で展開したことで、事業が膨らんでいる。</p>
委員	<p>その点は理解した。ただ、歳入と歳出のバランスをよく見てほしい。</p>
委員	<p>市内で事業を行っているものとして、新技術新製品の開発補助金や戸田ブランドなど活用できるものは全て活用しており、本当にありがたく思っている。新技術、新製品補助金などが、根付いているが、今後新しい、例えば、特許管理費の補助など、それ以外のものでも良いが、新しい目玉のようなものがあれば教えてほしい。</p>
担当者	<p>今、具体的に申し上げることができるものはない。事前質問にもあったが、データや税収をみて、どこに投入するのかという視点や市民や事業者からのアイデアも吸い上げながら考えていきたい。</p>
委員	<p>総合振興計画118ページの現状と課題の1行目のところに戸田市では働く人のおよそ3分の1とあるが、ここでいう働く人の中にパートやアルバイトも入っているのか。</p>

担当者	入っていると考えている。
委員	文章の中の3人に1人が市内となった時に、そんなに多くいるのかと疑問に思ったので、確認した。
委員長	産業振興の施策の中で、中小企業振興会議という会議体があるが、これがどのような役割を果たしているのか。戦略的なところまで議論して、そして市に対し提言しているのか、それをベースにしながら戦略を練っていくということであると思うが、外部の有識者、専門的な知見も取り入れていくということで、例えば、具体的に市の事業が提言によって変わったことや新しいものが生み出されたなど、成果はあるのか。
担当者	形になったものでは、彩湖道満グリーンパークの中で展開している手ぶらでバーベキューという取組を令和2年度から展開している。これは中小企業振興会議の中から彩湖道満グリーンパークを盛り上げる事業として、意見を受けて実施したものである。
委員長	<p>ここまでの議論で委員からも様々な多岐に渡る意見があったが、大所高所からみた、あるいは、長期的なスパンでみた産業振興に関するいわば戦略についての指摘があったと思う。そうなると、市の部局の中でのマンパワーが仮に不足しているとすると、この外部の知見をどう活かしていくのかということがかなり鍵になると考える。例えば、同じ戸田市でも教育委員会の学校教育分野のE B P Mというは、全国的に見てもかなり先進的で教育経済学や有名な方々が外部アドバイザーとして先日もオンライン会議をしていた。あのような形で外との連携を密にしながら動かしていくということもあり得るのではないか。</p> <p>5 閉 会</p>